

もみじ

—広島県山岳・スポーツライミング連盟会報—



一般社団法人 広島県山岳・スポーツライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail: hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

本号内容

1. 登山教室 (2 年 3/12 大山、1・2 年合同 3/19 吉和冠山) 報告
2. 岳連短信 (寄贈御礼、連盟ホームページの全面刷新、5 月の行事予定、比婆山スカイランコース整備/看板掛けのお礼)

1. 登山教室報告

(指導部長 森本 寛)

第 6 回 2 年生 3/12(土)

登山形態: 日帰り山行

山城: 大山

人数: 8 名 (スタッフ含)

広島県のまん延防止等重点措置の為、1~2 月の講習を中止しました。解除後、2 月に予定していた大山に行ってきました。再開直後という事も有り日帰りに計画を変更して実施しました。2 パーティに分かれての山行でしたが、それぞれの目標が達成できて良かったです。(森本)

【感想文】

『3 月大山 (六合尾根、七合尾根) 登山を終えて』

(登山教室 2 年 池田 敦)

私は、7 月の西穂高での登山下山時に骨折し、その後も腰の病気 (脊柱管狭窄症) のため、2 年生の山行には、参加ができずにいたところ、コロナ禍のため 1 月からの山行も中止となっていた。2 年生単独の山行は 2 月までとなっていたので、蔓延等防止措置が 3 月はじめに解除されても 2 年生の山行にはいかずじまいかと諦めていたところ、2 月末に補講に参加するか

どうかのアンケートがあり、3 月 8 日のメールで 3 月 1 2 日の大山登山の補講が決定された通知を受け取った。登山教室の考え方では、集団行動が基本にもかかわらず、私の体調や経験に気遣っていただき、六合尾根、七合尾根の 2 パーティでの計画が仕上がっていた。私のために六合のコースを用意し、二人のスタッフの方が付き添っていただくというのは、申し訳ないという気持ちとともに、1 月から 3 月までコロナと私の腰の体調から、ろくなトレーニングもしてこなかったことで登山できるか不安でいっぱいであった。腰の状態は、この頃やっと痛み止めを飲まなくてもよくなっていたところであった。計画が送られてきてから山行まで時間もない、やることといえば、痛み止めを飲むことと、コルセットを用意することぐらいしかなかった。

朝の 3 時に集合、6 時に大山駐車場、積雪は 1 メートル 50 センチぐらいだろうか、ゆるく踏むたびにひざ下まで沈んでしまう。

8 時 30 分、六合と七合の分岐で 2 班に分かれた。二人のスタッフの方と私の 3 人が六合尾根を登る。踏み跡はない。雪は締まっておらず、膝まで沈んでいく。まず、私がラッセルすることとなった。ここ数か月は、里山をウォーキングするくらいだったので、5 分くらいで音を上げてしまった。見かねてリーダーがラッセルし始めた。そのあと私が進むが歩みが遅い。私の後ろにスタッフがついていてくれるが、私が遅いため渋滞してしまっている。体力がついてきていないのだ。腰の具合が悪いということは、ここにきては、言い訳にもならない。途中でやめるわけにはいかない。登る

しかないのだが、ラッセルしてもらっている足跡に足を置くが、そこでさらに踏みぬいてしまう。足を素早くあげるといいと教えられるが、なかなかそれができない。踏みぬくたびにふくらはぎが痛くなる。後のスタッフの方に先に行ってもらうことにした。休みながら一歩一歩歩みを進める。

急な斜面ではピッケルのピックをかたい雪面に打ち込みそれを手掛かりに体を持ち上げるところもあり、こんな私でも冬山のバリエーションルートを登っているという実感が湧いてきた。我々の踏み跡以外ないルートを歩いている。誰もいない。雪庇のある痩せ尾根も歩いた。体はしんどくて悲鳴を上げており、息も絶え絶えだが、充実感があった。

10時30分夏道登山道に合流した。登山者が行列していた。さっきまで我々だけの山だったが、人ごみの中にいると、なんだか興ざめしている自分がある。散々な登りだったにも関わらず。

アイゼンを着けて山頂を目指すが、私の足は、これ以上の登りでは、ふくらはぎが、つって動かなくなりそうだった。下りの余力を残すには、これが限界と思い、それをリーダーに伝えた。残念そうだったが、六合沢から下山することになった。ここでも、足が沈み、足が悲鳴を上げたが、尻セードで降りていくと楽になった。ふもとから、六合尾根と夏道の合流点を見上げると、雪で覆われた急な斜面を登ったという実感が湧いた。感動した。

こんな経験を与えていただいた教室には感謝しかない。3年間ありがとうございました。

(写真提供 森本 寛)



第8回1年生第7回2年生合同 3/19(土)

登山形態：日帰り山行

山城：吉和冠山

人数：13名（スタッフ含）

今回は2021年度の最終回でした。本来なら比婆山の予定でしたが新型コロナウイルスの感染状況により吉和冠山の日帰りに計画を変更して実施しました。2年生は本来のカリキュラムが行えず変則的に3年間在

籍していたのですが今回をもって無事修了されました。今後は自立した登山者を目指して各自で山を楽しんでもらいたいと思っています。(森本)

【感想文】

『1年生・2年生共同山行(吉和冠山, 寂地山)』

(登山教室1年 松井 邦幸)

3月中旬とは言え、山はまだまだ冬模様。その上、今にも雨が降り出しそうな生憎の天気の中出発しました。

暫く天気は持ち堪えてくれましたが、頂上手前から冷たい雨が降り始め、間もなく雪に変わりました。「今シーズン最後のなごり雪じゃね。」と呟くと、2年生の高田さんが、「同年代じゃないと分らんよね。」と返された。確かに若い子には分らんじゃろうな一、唄のこと。

今回で2年生ともお別れ。来年度は1年生の募集はされないとのこと。なんだか寂しさを覚えます。

山行の方ですが、霧で山頂が見えず、太陽も見えず、おまけに残雪で登山道が隠れた上にトレースもわかりにくく、吉和冠山手前の鞍部で現在地ロストしてしまいました。

訓練のため、登山教室では紙地図とコンパス、高度計しか使わない様にしているのですが、この時はお手上げでYAMAPを起動しました。

これで吉和冠山までのルートは読み取れました。が…

吉和冠山から寂地山方面に向けて再出発し、鞍部に降りたところで再び現在地ロストしてしまいました。

この時、サポートの山奥さんから地図読みのコツとして、こんな時は寂地山ではなく直近の地点を目的地にすると良い旨を助言していただきました。

確かに近くのポイントを目指していなかったのが迷いやすかった様です。以後気をつけます。

そうこうしている間にタイムリミットの12:30が近づき、最寄りの1280m地点まで行って引き返す事になりました。

折り返しポイントでは、森本CLから、2年生に抜き打ちテストする旨の案内がありました。

「ロープとツェルト等で応急テントを作る」テスト

です。2年生3名に1年生は3グループに分かれて生徒としてそれぞれ付き、2年生は1年生にノウハウをレクチャーしながら設置する段取りです。私は高田さんのグループでレクチャーを受けましたが、巻き結びのコツ等とても分かりやすく説明していただきました。他の2年生もスムーズに設置され、森本CLから2年生全員の合格を頂きました。(個人的には留年されても歓迎なのですけども。(笑))

下山後、2年生の修了証書授与式が執り行われました。

1年間ご一緒していた2年生の皆さんが来月から居られないと思うと、何だかさみしい気がします。

個人的なことですが、来年度から100名山チャレンジを計画しております。

ご都合が合えばご一緒しましょう!

最後に、スタッフの皆様、今回もお忙しい中、ご指導ありがとうございました。

(写真提供 森本 覚)





を達成しました。ご協力頂いた会員の皆様、ありがとうございました。



1 日目朝 9 時にスキー場体育館前に集合

2. 岳連短信

1. 寄贈御礼

3/22 三原山の会『筆影』No. 505 (4 月号)

3/22 福山山岳会『会報』4 月号

広島山岳会『山嶺』第 880 号 (3 月)

広島山稜会『峠通信』第 753 号・754 号 (3 月・4 月)

3/25 広島やまびこ会『やまびこ』786・787・788

『中信高校山岳部かわらばん』706・707 (3/16・3/28)

2. 連盟ホームページの全面刷新

当連盟のホームページが 4/7 に全面的に新しくなりました。新ホームページの URL は従来通りの

<https://hiroshima-gakuren.or.jp/> です。



2 日目はスキー場の草刈りも行っており解散

3. 5 月の行事予定

5/14 定時総会

5/21~22 スカイランリハーサル

5/28~29 登山フェスティバル・第 29 回比婆山国際
スカイラン

なお、諸会議・登山教室等も含めた行事予定についてはホームページトップの「イベントカレンダー」をご覧ください。

4. 比婆山スカイラン コース整備/看板掛けのお礼

4/16~17 に行われたコース整備/看板掛けには 1 日目 24 名・2 日目 12 名の会員にご協力頂き、所期の目的

編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。

○会員団体で会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい